

## 1 2. 街並み保全地区内の木造日本家屋を活用したNPO支援

特定非営利活動法人 市民フォーラム21・NPOセンター  
(愛知県知多市)

### 1. 活動の背景と目的

#### 1) 活動の背景

当センターは民間のNPO支援組織として、97年から活動を開始してきた。その活動の柱は①NPOのネットワークづくり、②情報の収集及びその公開と発信、③企業・行政とのパートナーシップづくり、④NPOの活動相談、⑤NPOの人材育成・組織運営支援、⑥NPOの活動拠点整備運営、⑦調査研究及び政策提言である。

特に設立当初より、NPO活動拠点を整備することを事業の柱として位置づけ、様々な事業を行ってきた。一つは97年11月から行っている「NPOに対する低廉共同事務所の提供」である。当初10坪・1事務所に入居団体数4団体でスタートしたが、その後、98年12月よりスタートした4階建て・120坪の空きビルを活用した総合NPO支援施設「NPOプラザなごや」の開設・運営をてがけ、25団体が事務所を構え、会議室や印刷機の利用など、約50団体が活動の拠点とする、活動場所を提供している。

民間で活動場所を整備するNPO支援活動は全国的にも極めて珍しく、これだけのまとまったスペースの提供を行う事業は全国では当センター以外にはない。

#### 2) 活動目的

今回の事業では、99年5月に、「使用されなくなった街並保存地域内の昭和初期建造の木造日本家屋を活用してもらえないか」という一市民からの提案が当団体の理事を通じてなされたため、NPOに対する活動拠点の整備と、街並保全をあわせた複合施設を開設・運用することとなった。

この建物は愛知県知多市岡田地区として、明治から昭和にかけて木綿づくりで栄えた地域で、地区内に約100近い蔵があることが確認されており、決して有名ではないが隠れた蔵のまちでもある。

この昭和初期の佇まいあふれる地域に、昭和初期に建築された築80年の旧岡田医院邸の日本伝統家屋としての良さを活かしつつ、知多地域のNPO活動の拠点として整備することで、NPO活動の推進とまちづくりに役立てることを目的に事業を行った。



旧岡田医院邸外観



岡田地域の蔵見学会にて (00.7.29)  
岡田地域には約100の蔵が現存

## II. 活動の内容

### 1) 企画委員会

2000年度の活動は、スペースをいかに利用するかという事を検討することから始まった。建物の保存だけではなく、活用するために、NPOが事務所として入居し、また、日本家屋の良さを活かした活動が展開できる場所として整備するために、何が必要であるかを検討するための会議を重ねたのである。

当センターは名古屋に事務所をおく団体であるため、知多市および岡田地区の事に精通した、NPO関係者が企画委員会には必要である。そのため、知多市で介護及び家事援助などの事業を通じて、広く市民に根づいている、「特定非営利活動法人ゆいの会」代表理事 松下典子氏、また、岡田の街並み保全活動の中心的役割を果たしてきた「岡田街並保存会」の伊井基治氏、さらに、岡田地区唯一の大同高校知多校舎教諭の林金治氏など、キーとなる人を企画委員に得ることができた。

その他、建物オーナー、建築士、大学教授、元大同高校知多校舎校長、知多青年会議所元会頭、造園業経営者、など、実に多様な企画委員に参加していただいた。

この企画委員会は合計9回実施され、利用団体の募集、改装計画の作成、各種企画の立案・実施を検討した。性急な立ち上げを行うのではなく、地域の関係者がきちんと合意を形成しながら、建物の利用についての意見をかわし、地域の中で認知をしてもらうための準備期間であるとの位置づけである。

この企画委員会を通じて出された利用プランは

#### ①岡田地区の小学校の学童保育所

岡田地区の小学校は一つしかないのだが、学童保育の整備が送れており、地域のニーズとしては高い。また、岡田小学校まで徒歩2分であり、立地条件としては大変良い。また、非常に趣のある日本家屋であり、子どもが育つ場としては好ましい場所である。

#### ②岡田地区の宅老所

岡田地区に福祉施設はあるが、リノリウム張りの味気ない建物であり、宅老所、もしくはたまり場としての機能があると、地域の核になることができる。

また、学童保育と宅老所を重ね合わせることで、世代を越えた交流が可能になる

#### ③宿泊研修所

駅からバスで15分であり、名古屋からも電車で30分ほどかかる。決して交通至便ではないが、炊事場もあることから、理事会や宿泊研修の場所として整備すれば、名古屋市内のNPOも顧客とすることができ、従来とは違うタイプの活動拠点とすることができる。

#### ④NPO会議室

最も設備投資が少なく済み、ベーシックな事業である。一



企画委員会での会議風景



旧岡田医院邸一般公開 (00.7.9)  
抹茶を楽しんでいただきました

番の問題は、管理者・管理団体をどうおくか、である。

#### ⑤NPO事務所・事業者事務所

様々な利用プランの最も基盤となる活動である。しかし、事務所として入居し、管理まで含めて依頼できるNPOを1年間かけて知多地域で探り、複数の団体が候補に挙がったが、最終的には入居したいという団体は現れなかった。

そこで、現在は、街並み保全・建物保全を理解したうえで事業を行う事業者も視野に入れ、検討している。

これら出された検討プランを中心に、それぞれの事業の実現のためのキーとなる人物への働きかけを行ってきた。しかしながら、興味を示しつつも、主体となって活動する団体や、人物を発掘できていないのが現状である。

## 2) 改装

入居者を捜すという点では、大変苦戦し、成果を上げることができなかった。入居者が決まらないことには設備投資に対する回収計画もたてられない。

しかし、設備投資をしないことには入居者も入る可能性が低い。

ジレンマの中、改装を先行させることを決断し、特にくみ取り式の便所を水洗式の洋式トイレに改装させ、また、屋根の補修、電気設備工事など、最低限の補修工事を2月から3月にかけて実施した。また、設計監理及び後述する「ふるさと工房岡田発」の企画のための事業責任者を新規で雇用した。その結果、人件費含めて総額で約200万程度かけた補修工事を実施することができた。助成事業ではあるものの、資金の乏しいNPOにとってみれば、非常に思い切った決断であり、投資である。

具体的な改装・補修内容は以下の通り

- ・全館の大掃除
- ・ふすまの張り替え
- ・障子の張り替え
- ・庭園の草むしり・剪定
- ・汲み取り式トイレを水洗洋式トイレへ改装
- ・知多市下水道への接続
- ・全館の電気配線のやりなおし
- ・従来の照明器具を活かしながらの新規照明器具の取り付け
- ・屋根雨漏り補修 10箇所
- ・雨漏りで腐っていた畳の取り替え
- ・プロパンガス設置・ガスコンロ・ガス湯沸かし器の設置
- ・座卓 10脚購入
- ・知多木綿を利用したカーテンの交換
- ・カーペットの購入：14畳分



改装後の広間  
雰囲気を壊さない照明を取り付けた



整備された庭園

### 3) 「ふるさと工房 岡田発」

地域の市民、行政関係者など、多くの人に、この建物の事を知ってもらうことと、岡田地域のまちづくり・ふるさとづくりをともに考えることを目的に、「ふるさと工房岡田発～NPOフォーラム in ちた」を2001年3月24日(日)、実施した。13:00から17:20までの長丁場の企画であるが、それぞれ参加者は大変熱心に参加していただいた。参加者数は40名。

プログラムは以下の通りである。

#### ●基調講演「NPOってなんだろう？」

舟橋伸治：ガイア造景研究所主宰

#### ●パネルディスカッション

「歴史建造物とNPOの新たな出会い」

- ・まちづくりとNPO支援(舟橋伸治：ガイア造景研究所主宰)
  - ・地域に根ざしたNPO活動(松下典子：ゆいの会代表理事)
  - ・岡田地域の街並みを利用したNPO活動(伊井基治：岡田街並保存会)
  - ・これからの岡田を提案する(鈴木智樹：知多JCまちづくり委員会委員長)
- #### ●まちづくりワークショップ
- ・建物をいかに活かすことができるか考える
  - ・NPOが継続的な活動をするためには
  - ・岡田の街並みを保存し、活かすには

事前・事後でマスコミに非常に大きく取りあげられ、喫茶店を経営したい、との人も現れるなど、その反響も出てきている。

## III. 活動の効果及び今後の課題

### 1) 活動の効果

今年度の活動で、地域住民に徐々に認知されてきた。2001年度に入り、一般公開を行ったところ、1日で150名の参加があるなど、潜在的関心層を拾い出せるようになってきている。

また、まちづくり、地域づくりに関心を持つ岡田地域のキーパーソンとさらにコミットできる状況ができたのは大きな成果である。

特に、トイレや、水まわり、電気設備など、利用のための基礎的なインフラが2000年度事業によってできたことは、2001年度以降の活動を大変すすめやすくすることができた。

### 2) 今後の課題

2000年度においては、様々な補修を当センターだけが負担する形となっている。しかし、建物の補修は古い建物として、今後も出費が予想される。建物に対する愛着を産み出し、建物補修のための継続的なサポートができる体制を作ることを目的と



ふるさと工房岡田発 (01.3.24)  
基調講演：船橋伸治氏



パネルディスカッション



ワークショップにおける  
小グループでのディスカッション

した、「NPOプラザちた補修基金（仮）」を地域の住民・NPOとともに創出することが課題である。

また、継続的に入居団体を探る努力を続けながら、複数の団体による、共同利用方式を構築し、利用を重ねてもらう中で、施設を利用したいと考える人や団体を育てていくことが必要である。

そのための地域に根ざした広報活動の充実、地域住民とのワークショップ形式による建物や、庭園の補修、各種イベントの実施など、徐々にでも、利用者を増やす努力を続けたい。



旧岡田邸表玄関